

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（ 尾鷲高等学校 全日制 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「個に応じ個を生かす教育の実践」 「当たり前のことが普通にできる生徒の育成」
(2)	育みたい 児童生徒像	- 様々な進路希望を持つ生徒が、自らの目標の実現に取り組んでいる。 - 身だしなみや言葉遣い、社会生活に必要なマナーが身に付いている。 - 卒業後、地域を支えるリーダーとなる人材としての資質が備わっている。
	ありたい 教職員像	- 生徒それぞれの学習目標に対応した教育が実践できている。 - 社会生活を送る上での「当たり前」を実践し、生徒の範となっている。 - 保護者、地域から信頼され、目指す学校像に基づいた指導ができている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手 とそこからの 要求・期待		<生徒> 楽しい学校、よくわかり参画意欲の高まる授業、安心して学習できる環境。 <地域(保護者を含む)> 進路希望の実現、地域を元気にする情報の発信。 地域のリーダーとなる人材の育成。	
(2) 連携する相手 と連携するうえ での要望・期待		連携する相手からの要望・期待 <保護者> 進路希望を実現させる進学・就職指導 <中学校> 高校生活を通して成長し、生き生きとした生徒の育成	連携する相手への要望・期待 <保護者> 教育活動への支援と協力 <中学校> 尾鷲高校への進学に向けた連携・協力
(3) 前年度の学校 関係者評価等		「生徒」が前面に立ち、本校について自らの言葉で語ることは、本校をPRする格好の機会となり、在校生、中学生いずれにも良い刺激になるのではないかな。 - 去年よりも授業の状態が確実に良くなっている。生徒を街で見かける時もすごく雰囲気良くなっている。学校がよく努力されていることが伺える。今後もこの状態が続くようお願いしたい。 - 卒業後、都市部へ進学・就職しても対等に渡り合えるだけの学力を付ける必要がある。基礎学力定着のために本校の教員が行っている活動を継続していただきたい。	
(4) 現状と 課題	教育 活動	- 生徒の学力・学習意欲が多様であり、それぞれの進路目標に応じた基礎学力を定着させる必要がある。 - 早期からの進路意識の確立、特に進学面では、一般入試による大学等進学まで見据えた意識と学力の向上をはかることが課題である。 - 生徒の多様な進路を実現していくために、将来に対する明確な目的意識を早い段階から持たせることが必要である。また、コミュニケーション力や社会人としてのマナーを確実に身につけておくことが大切である。	
	学校 運営等	- 基礎学力向上のための組織的な取組を行う必要があるが、学級担任や教科担当者レベルでの個々の動きに留まっている。 - 学習面や生活面できめ細かな指導が必要な生徒が多く、教員の過重労働時間が多くなる傾向になっている。業務全般について時間管理を意識した効率化をより一層進める必要がある。 - 毎年度、教職員の転出入が多く、業務の引継ぎが難しい場面がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	- 基礎・基本的な学力レベルを引き上げ、各学科、コースの目指す学力の定着を図るため、日々の授業を大切にし、その充実をはかる。 - 進路指導における対話を重視し、生徒個々の進路実現に対する理解を深めさせる。 - 社会人として生きるためのマナー、人権感覚、命を大切にする心を育成する。 - すべての教職員が ICT 機器を活用した教育に積極的に取り組む。
------	--

- ・基礎学力の向上に向け、各分掌の枠にとらわれず学校全体で取り組み、情報を共有する。
- ・教職員のスキルアップのための校内研修会を定期的実施する。
- ・職員の総勤務時間の縮減に取り組むとともに、業務全般について時間管理を意識した効率化を進め、生徒も職員も生き生きとした学校を目指す。
- ・業務の円滑な引継ぎと職員間の連絡・報告・相談を徹底し、効率的な校務運営を行う。
- ・風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。
- ・尾鷲高校の魅力的な取組を保護者や中学校、地域に積極的に発信する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業の充実 (教務部)	自習時間の削減や行事の見直しにより、授業時間の確保に努める。 【成果指標】 自習時間を年間150時間以内に収め、1単位あたり35時間の実授業時間を確保する。	【自己評価】◎ 【結果】自習は63時間(1月末現在)	※
ICT機器の活用(教務部)	配備されたchromebook等ICT機器の活用を促進し、授業の効率を向上させる。 【成果指標】 ICT機器活用状況のアンケートを教員向けに実施し、活用できている割合を90%以上にする。	【自己評価】× 【結果】(教務部でICTに関わる研修を実施する際にとったアンケートより) ・教員が授業に関わって使用する・使用できる(Google Classroom等を運用できる)・・・81.3%	◎
授業内容の充実(情報ビジネス科)	1年生～3年生のカリキュラムを見通した授業をめざし、学年が進むにつれて、より専門的な知識・技能を獲得できる授業内容を構築する。 【活動指標】 ・月1回、教科会を実施 【成果指標】 ・授業アンケートを実施し、授業満足度80%以上とする。 ・1つ以上の資格に合格した生徒の割合80%以上とする。	【自己評価】○ 【活動状況】月1回の教科会 は実施できず。学期に2回程度実施 【結果】 ・アンケートで授業満足度は96.6% ・1つ以上の資格に合格した生徒82%	
資格取得指導の充実(システム工学科)	全員受験指導、補習指導を実施する。 【成果指標】 ・計算技術3級(1年)合格100%とする。 ・危険物取扱者乙種第四類(1年)合格50%以上とする。 ・ガス溶接(2年)合格80%以上とする。 ・情報技術検定(2年)合格40%以上とする。 ・昨年度の合格率との比較で成果を検証する。	【自己評価】○ 【結果】(今年度の結果) ・計算技術3級 94% ・危険物乙四 23% ・ガス溶接 100% ・情報技術検定 55%	
学科における基礎学力定着指導(システム工学科)	スタディサプリの動画配信サービスを活用し、学力の向上を目指す。 【成果指標】 到達度テストの1回目と2回目の結果を比較する。	【自己評価】2回目の結果がまだ出ていないので未検討。 【結果】(1回目平均点) 1年:139.1/300 2年:105.5/300	
人権感覚の醸成(人権)	人権教育推進協議会(本校主催)、紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議(尾鷲市教育委員会主催)において、人権LHR等を公開する。そし	【自己評価】×	

教育推進委員会)	て、事後の意見交換会で出された課題について、改善策を検討する。 【活動指標】 年3回の人権LHRのうち、1学期と2学期の学習を公開し、事後の意見交換会を実施する。	【活動状況】新型コロナウイルス感染拡大のため人権学習を公開できなかった。	
生徒指導の充実（生徒指導部）	朝の挨拶運動や各集会、頭髪服装指導において挨拶と身だしなみを徹底し、コミュニケーション力や社会人としてのマナーへの意識を高める。 【成果指標】 生徒アンケートで肯定的回答を90%以上とする。	【自己評価】◎ 【結果】 ・「制服を正しく着用していますか？」93.5% ・「適切な頭髪は保っていますか？」99.8% ・「化粧はしないようにしていますか？」99.3%	
いじめの防止と早期発見（生徒指導部）	学年主任、クラス担任、関係教員（状況に応じて授業担当者・部活動顧問等）と連携を図り、いじめの防止や早期発見、早期対応に当たる。 【活動指標】 ・定期的に学年主任と懇談し、生徒の欠席日数などの確認と指導成果の検証を行う。 ・学期毎にいじめに関するアンケートを実施する。	【自己評価】○ 【活動状況】生徒の欠席の把握については、学年主任との定期的な懇談を行うとともに、保健部からの情報を活かしている。いじめアンケートは学期毎に実施。	
希望進路の実現（進路指導部・進学担当）	進学希望生徒に対する面談回数を増やすとともに、教員の指導力向上に努める。 【成果指標】 ・担任との進路検討会を年間3回以上行う。 ・進路指導に関する校内研修を実施する。 ・国公立大学に10人以上の合格をめざす。 ・大学一般入試で偏差値60以上の大学への合格者をめざす。 ・短大、専門学校進学希望者の合格率を100%にする。	【自己評価】○ 【結果】 ・1月25日現在、国公立大に3名合格 ・現在、難関大学へ出願中 ・短大2名、専門学校38名が合格し、100%を達成	
希望進路の実現（進路指導部・就職担当）	就職希望生徒への面談を強化し、希望職種と個人の適性とのマッチングを図る。 【成果指標】 ・就職内定率100%にする。 ・公務員試験に複数名の合格をめざす。	【自己評価】○ 【結果】 ・就職希望者48名が内定し、100%を達成。 ・公務員は合格者0名であった。	
希望進路の実現（進路指導部）	【活動指標】 1・2年生を中心に、進路ガイダンスや進路講話を実施し、進学・就職対策やキャリア教育の充実を図る。	【自己評価】△ 【活動状況】適宜、実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響で十分にできたとは言えない。	

改善課題

- 【授業の充実】毎日の積み重ねなので、粛々と取り組む。
- 【ICT 機器活用】次年度からの生徒1人1台端末の利用に向けて研修を深める必要がある。
- 【情報ビジネス科】教科会は曜日等を事前に決め、定例で開催できるようにする。
- 【システム工学科】年2回受けられる資格試験を有効活用する。また、基礎学力向上のため、教員から生徒への声掛けを増やす必要がある。いずれもシステム工学科教員全員で取り組む必要がある。
- 【人権学習の公開】本校主催のものについては、昨年度以降のようなことが続くようであれば、公開の方法などもあわせて検討する必要がある。本校の取組を発信できる機会を有効に活用したい。
- 【生徒指導】登校時や学校生活中には服装の乱れや化粧はほとんど見られないが下校時に乱れてしまう生徒が何名かいるため、下校時の指導を検討する。
- 【いじめ防止】いじめに対する初期対応や認知、組織的対応など、教職員の共通認識をさらに深める。

【進路実現（進学）】進路研究の機会を増やし、早期から進路実現への意識を高める取組を行う。また、多様化する入試に低労力に対応できる仕組みを作る。

【進路実現（就職）】公務員希望者の指導を1年次や2年次など早期から開始する。

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
職員の連携 と引継ぎ (教務部)	昨今の教務部の業務の多岐化に関わり、次期業務担当者が円滑に業務できるよう引継ぎ内容の資料化を徹底する。 【成果指標】 次年度の教務部における引継ぎ満足度を調査し、その達成状況を把握する。	【結果】年度当初に、「今年の業務についての手引きを作りながら行う」ことを共有しており、それぞれの係でそのことを念頭に業務に当たっている。自己評価については、次年度のアンケート結果を待ちたい。	
情報共有の 徹底（生徒 指導部）	週1回は部会を開き、その時々課題を整理し、情報共有をすることにより、問題行動等の未然防止に努める。 【活動指標】 ・部会の回数（年30回以上） 【成果指標】 ・過去3年間の特別指導の延べ人数の平均を下回る。	【自己評価】○ 【活動状況】部会21回。部会は、副担任の業務や部活動で全員が揃うことは難しいが、情報共有は確実にやっている。 【結果】1月末現在、指導人数13人（過去3年間の特別指導延べ人数の平均は14.6人）。特別指導の延べ人数は、SNS上でのトラブルが絡む案件が増え、指導人数も増加傾向にある。	
生徒会との 連携（生徒 指導部）	来年度の分掌統一に向けて、仕事の協力体制を構築する。 【活動指標】 生徒会代表との定期的な懇談を行う（月1回程度）。	【自己評価】△ 【活動状況】行事運営に対するお互いの協力が難しかった。	
学校情報の 提供（生徒 会）	喫煙防止、薬物乱用防止などのボランティア活動に参加することを通して、地域社会に貢献する主体性と行動力を持った生徒を育成する。 【成果指標】 地元新聞紙に2回以上掲載される。	【結果】薬物乱用防止啓発活動などに生徒会役員が参加し、その様子は地元紙にも取り上げられた。また、毎日昼休みの放送で感染防止策の徹底を呼び掛けた。	
学校情報の 提供（総務 部）	学校運営が円滑に進むよう学校全体の動きを把握し、臨機応変の対応に努めるとともに、各部等との連絡を密にする。 また、学校ホームページやブログの更新、パンフレットや通信紙の作成など、幅広い広報活動を通して学校の様子を地域に積極的に発信する。そして、学校と地域との関係を深め、地域に根ざした学校づくりにつなげる。 【成果指標】 学校ブログ及び学校通信「鷺高人」の更新・作成頻度を前年度と比較して評価する。	【自己評価】○ 【結果】本年度途中から小学校への配付も始めた。	
人権教育の 充実（人権 教育推進委 員会）	保護者対象の人権通信「素心」を発行し、啓発活動を推進する。 【成果指標】 年度末に発行回数や内容を検証する。	【自己評価】○ 【結果】7月中旬に発行した。	

教科会の効果的な活用 (情報ビジネス科)	毎回の教科会にて、現在の授業内容について協議するとともに、新教育課程での授業内容や評価方法について検討する。 【活動指標】 ・月1回、教科会を実施する。 【成果指標】 ・観点別学習評価に対応した評価基準や評価表を見直す。	【自己評価】△ 【活動状況】教科会は月1回も実施できず、学期2回程度の実施にとどまった。 【結果】観点別評価に関する評価基準等は、次年度に向けて引き続き検討中である。	
学科における進路指導の充実（システム工学科）	希望進路（3年）の実現を目指し、システム工学科全教員による個別面接と、学力向上のための指導を実施する。 【成果指標】 ・学校斡旋就職希望者の100%内定をめざす。 ・昨年度の内定率との比較を行う。	【自己評価】◎ 【結果】内定100%	
総勤務時間の縮減	年間をとおして定時退校日、閉校日を計画的に設定し、休暇を取りやすい環境を作る。また、業務の精選・効率化・平準化、教職員間の協力を促し、時間外労働の縮減を図る。 【成果指標】 ・長期休業中に閉校日を計5回設け、いずれの日も80%以上の教職員が終日休暇を取得する。 ・月1回程度の定時退校日を設け、95%以上の教職員が定時退校する。 ・すべての部活動が1週間に1回以上の休養日を設ける。 ・放課後に行う会議の80%以上を60分以内に終了する。 ・4～12月の休暇（年休＋特休）取得日数の平均を15日以上とする。 ・1人あたり平均時間外労働時間を月30時間以下にする。 ・月45時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする（4～1月ののべ人数を指標とする）。 ・年360時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする（4～1月の300時間超の人数を指標とする）。	【自己評価】× 【結果】 ・長期休業中の閉校日は4回にとどまった。終日休暇を取得した教職員の割合は、夏季79.2%と80.8%、冬季62.7%と69.2%で、80%以上は1回。 ・定時退校日を月1回設けたが、定時退校できた教職員は73.1%であった。 ・すべての部活動が1週間に1回以上の休養日を設けた。 ・放課後に行った会議のうち、60分以内に終了できたのは60.3%。 ・4～12月の休暇（年休＋特休）取得日数の平均は13日と3時間で、15日には届かなかった。ただし、集計の都合上、この数値は、ほとんどの教員については、昨年1～12月の平均値を9か月分に換算したものである。 ・4～1月の1人あたり平均時間外労働時間は、過重労働対策システムに入力された数値から計算すると、行政職以外の53人の月平均は12時間34分である。なお、28人は0時間となっている。 ・4～1月の10か月間に月45時間を超える時間外労働をした教職員ののべ人数は56人、月平均5.6人となった。 ・4～1月で計300時間を超える時間外労働をした教職員は9人。	※ ◎
改善課題			
【生徒指導】今後も集会やホームルームで適切な注意喚起をしていく。 【情報ビジネス科】他校の状況もふまえ、次年度に向けて、観点別評価に関する評価基準等を見直す。 【システム工学科】生徒のマナーや生活面での指導を重点的に行う必要がある。 【学校情報の提供】 ・ホームページの更新を積極的に行えるよう、総務部員全員が対応できるようにする。また、中学生が志望校を決める際の資料として、もっと興味を持ってもらえるよう、様々な角度（特に部活動）からブログ等をアップできるよう、学校全体の協力を求めながら更新回数を増やしたい。			

- ・「驚高人」は、これ以上発行回数を増やす必要はないと考えるが、中学校に配付する時期なども考慮し、効果的な情報発信となるよう早めに準備をする必要がある。

【総勤務時間の縮減】引き続き業務の精選・効率化、休暇取得の促進、時間外労働の縮減などに努める。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・現在、尾鷲高校は非常に落ち着いた状況にあると考えるが、周囲への発信が十分でないのではないか。いまだに他地域からは「こわい」イメージを持たれている。尾鷲高校の特色ある学科、例えばシステム工学科は東紀州で唯一の工業が学べる学科であり、尾鷲高校にしかない部活動も含め、もっと魅力を発信できないか。 ・「探究の時間」で地元の企業と生徒が会う機会とともに、自分で考え、課題を見つけ解決していく取組をぜひ継続していただきたい。 ・学力で一喜一憂している状況もあるが、やる気があるかないかが大きな分かれ目であり、目標が設定できるかが重要である。進学が成果の全てではないことも頭に置いていただきたい。 ・公務員が今年度合格者なしということが気になる。地元で定住するためには、職に就く必要があるが、公務員はその職の1つであり、公務員試験において、大学卒でなくとも合格するような指導が求められる。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・職業観を育成するための講演などの実施に向け、今後も商工会議所等に協力していただく。また、今年度は地元就職者が例年になく少なかったことから、地元で定住できるような取組でも協力を求めている。 ・保護者アンケートでも、早期からの目標設定につながる指導を求める声が多いことから、生徒のやる気を引き出すためにも、生徒の目標設定をサポートしながら学習指導や進路指導に取り組んでいく。 ・公務員の合格者数を目標に掲げる高校は少ないが、本校は、地域に残る人材を育てることを目標にしており、その一環として、今後も公務員合格者数を目標に掲げていく。やはり、1・2年次の早期からの準備や指導が必要である。また、公務員希望者向けの専門学校で勉強してから再挑戦する場合も念頭に置いて、必要な基礎学力をつける取組をしていく。
学校運営についての改善策	・この地域では本校にしかない専門学科や部活動などをもっとアピールしていく。また、「驚高人」を配付する中学校の範囲を広げることも検討する。